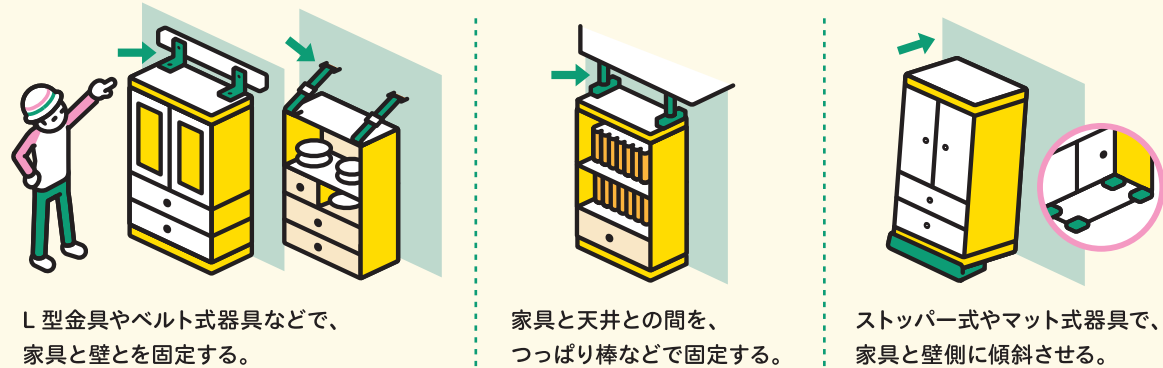




自分の身の安全を確保するために、今からしっかり対策をしましょう。

過去の地震では、家具の転倒落下やガラスの飛散によるケガが、家の中で起きるケガの75%を占めていました(阪神淡路大震災 住宅内部被害調査報告書)。
対策をすることで、地震後に起こり得る多くのケガを減らすことができます。

家具の転倒防止



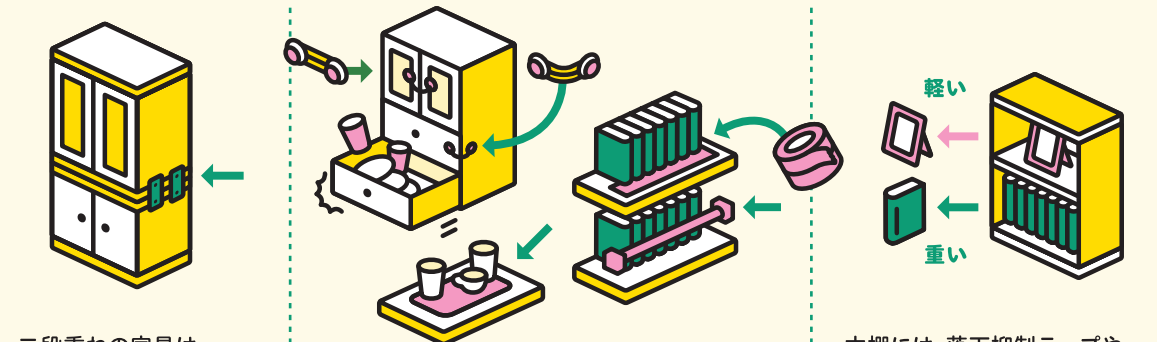
L型金具やベルト式器具などで、家具と壁とを固定する。

家具と天井との間を、つっぱり棒などで固定する。

ストッパー式やマット式器具で、家具と壁側に傾斜させる。

効果 **大** ←————→ **小**

その他の家の中の地震対策



二段重ねの家具は、連結固定器具で上下を連結し、一体化させる。

食器棚には、飛び出し防止器具を取り付け、食器の下にはすべり止めマットを敷く。

本棚には、落下抑制テープや器具を取り付ける。重い物は下に収納し、家具を倒れにくくする。



照明器具は、直付照明器具に交換するか、数ヶ所天井に固定する。

テレビ本体とテレビ台をストラップ式器具や粘着マットなどで固定する。

ベルト式器具で冷蔵庫の上部と壁を固定する。

※取っ手の一例(冷蔵庫によって異なります)

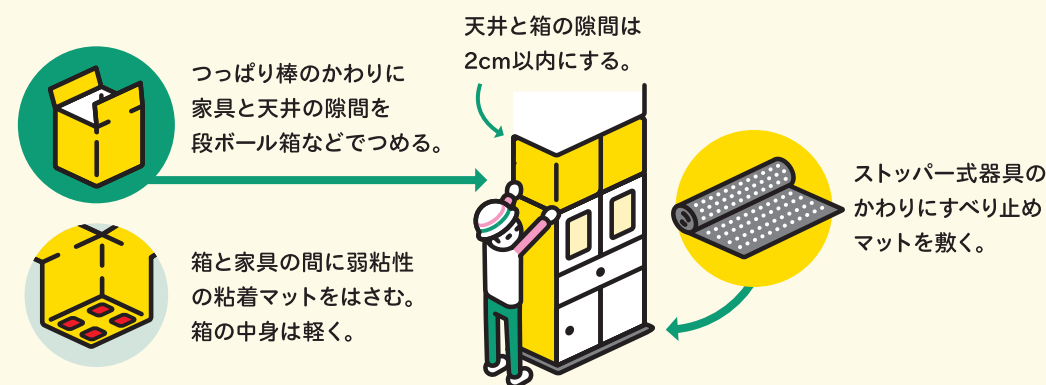
市では、高齢者・障害者等を対象に、家具転倒防止器具等を無償で支給しています。
問合せ先 危機管理室 048-464-1111(代表)



家具転倒防止のポイント

器具の設置が難しければ、特別なことをしなくても、家具が転倒するリスクを減らすことができます。
●家具の配置を見直す
●手に入れやすいもので代用する
できることから取り入れてみましょう。

合わせワザで手軽にできる家具転倒防止



つっぱり棒のかわりに家具と天井の隙間を段ボール箱などでつめる。

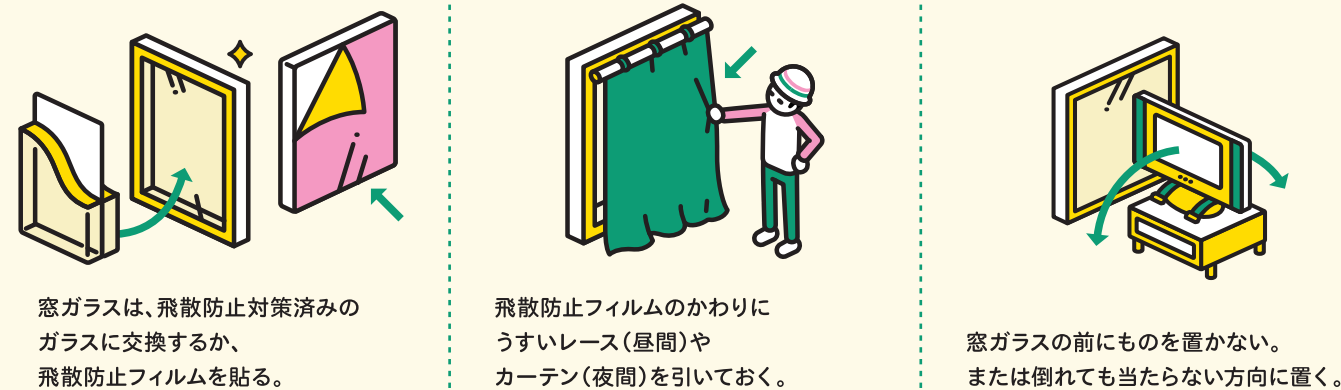
箱と家具の間に弱粘性の粘着マットをはさむ。箱の中身は軽く。

天井と箱の隙間は2cm以内にする。

ストッパー式器具のかわりにすべり止めマットを敷く。

単独よりも転倒防止効果がアップ!

ガラスの飛散防止対策

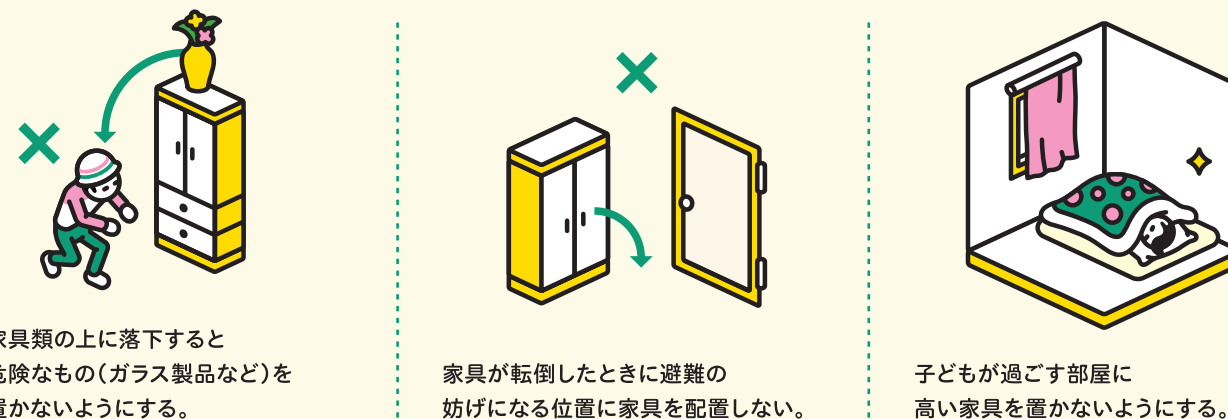


窓ガラスは、飛散防止対策済みのガラスに交換するか、飛散防止フィルムを貼る。

飛散防止フィルムかわりにうすいレース(昼間)やカーテン(夜間)を引いておく。

窓ガラスの前にものを置かない。または倒れても当たらない方向に置く。

今すぐできる転倒防止対策



家具類の上に落下すると危険なもの(ガラス製品など)を置かないようにする。

家具が転倒したときに避難の妨げになる位置に家具を配置しない。

子どもが過ごす部屋に高い家具を置かないようにする。

市では、昭和56年5月31日以前に着工した建物(戸建て住宅・分譲マンション等)を対象に、耐震診断・耐震改修・耐震シェルター等の費用に助成金を交付しています。
問合せ先 建築課 048-464-1111(代表)